

奈良市保健所保健予防課

電話 0 7 4 2 - 2 3 - 6 1 7 3

細菌性赤痢の集団発生について

1. 探知

平成 17 年 9 月 30 日（金）午後 0 時 42 分に、市内医療機関から細菌性赤痢と思われる患者の発生があったとの届出があった。

2. 概要

調査の結果、初発患者（30 代男性）は平成 17 年 9 月 13 日（火）から 12 日間、トルコ観光旅行のツアーに参加しており、直ちにツアー同行者の居住自治体に調査依頼を行った。同行者数は初発患者を含め男性 7 名、女性 7 名の合計 14 名。

初発患者は 9 月 20 日（火）旅行中より下痢、発熱等の症状があらわれ、9 月 24 日（土）関西国際空港より帰国した。9 月 27 日医療機関を受診し、同日提出分の便培養検査の結果、10 月 1 日（土）細菌性赤痢と診断された。

その後、10 月 3 日（月）初発患者の家族（60 代男性）10 月 4 日（火）兵庫県居住の 60 代男性が細菌性赤痢の患者であることが判明した。

- ・主な症状は下痢・発熱・腹痛であるが、外来治療により現在いずれも軽快している。
- ・感染経路は現在調査中である。
- ・保健所では接触者に対し、感染予防を徹底し、感染拡大防止に努めるよう指示した。

表 1 同行者の状況

	居住地	性別	症状		居住地	性別	症状
1	奈良市	男	有	8	京都府	女	有
2	奈良市	男	有	9	兵庫県	男	有
3	奈良県	男	有	10	兵庫県	女	有
4	京都府	男	無	11	大阪府	女	有
5	京都府	女	無	12	大阪府	女	有
6	京都府	女	有	13	大阪府	男	無
7	京都府	女	有	14	宮城県	男	有

細菌性赤痢

病原体：赤痢菌

菌の特徴：細菌性赤痢は、経口感染する急性腸炎です。世界的にまん延しており、日本でも発展途上国からの帰国者などから患者が多く発生しています。感染する動物は主にヒトや一部の霊長類（サルなど）です。

感染経路：感染力が極めて強く、少量の菌でも感染します。ヒトやサルが保菌し、患者や保菌者の便中の赤痢菌に汚染された水や食物により経口感染します。発症に要する菌量は極めて少ないので、ヒトからヒトへの二次感染も重要な感染経路となります。

症状：潜伏期間は1～5日（多くは3日以内）で、症状は発熱、下痢、嘔吐、腹痛をともなうしぶり腹（直腸に病変があると過敏になり、少量の便しかでなくても頻回に便意をもよおす）、膿・粘血便等、大腸炎の症状です。治療は抗菌薬と対症療法です。

予防：海外での感染が大半を占めることから、生水、氷、生の魚介類、生野菜などは飲食しないことが重要。また、手洗いの励行が経口感染の予防の基本です。

発生状況：2004年は全国で578例の報告あり。
（推定感染地域は国内89例、国外462例、うち、推定感染国（複数回答あり）インド119例、インドネシア70例、中国65例、タイ32例など）
2005年は9月18日までに全国報告分408例、うち奈良県4例であった。